

2021年度入試

# 入学試験問題集

【東京成徳大学 応用心理学部 健康・スポーツ心理学科】



東京成徳大学 東京成徳短期大学

TOKYO SEITOKU  
UNIVERSITY

# 目 次

総合型選抜 9月入試 小論文	1
総合型選抜 10月入試 小論文	2
総合型選抜 12月入試 小論文	3
学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試） 小論文	4
スポーツ特待生入試 小論文	6
一般選抜 D日程入試 総合型問題（学部学科別）	7
出題意図・解答例	9

「一般選抜 A 日程・B 日程・C 日程」の問題は、  
「2021 年度入試問題集 一般選抜 A 日程・  
B 日程・C 日程（全学部・学科共通）」に掲載  
しています。

# ●総合型選抜 9月入試

## 【小論文】（試験時間：60分）

高齢者の多くが「認知症は絶対なりたくない嫌な病気」と考えており、認知症の人は無能で役に立たない、認知症の人の家族には大変な負担がかかるなど、認知症にはネガティブなイメージが付きまとっている。

山口（2017, 2019）によると、「認知症ポジティブ（Dementia-positive）」とは、認知症にやさしい地域（Dementia-friendly community）と認知症になっても能力を発揮できる（Dementia-capable）という2つの概念を合わせたものであり、認知症になっても認知症の人や家族が幸福（well-being）をめざすことができるという考え方である。認知症にやさしい地域とは、地域の人々が認知症に対する偏見をもたず、困った人・周囲に迷惑をかける人・何も役に立たない人などの烙印を押さず、認知症の人が地域に受け入れられて安心して過ごすことができ、残存能力を発揮して活躍できる機会の得られる社会である。認知症になっても能力を発揮できるとは、「認知症になっても本人にできることがある」という意味だけでなく、認知症の人がもてる能力を発揮できるような社会の支援体制づくりや、増加し続ける認知症の人を社会で支えることが可能な政策という意味も含まれる。認知症になったら何もできなくなるわけではなく、発症時には数多くの残存能力があり、可能性を秘めている。認知症になったからこそできる「当事者による当事者支援」や、自立・自律支援がある。

高齢期に認知症になったら、「認知症は長生きの勲章だ。長生きできてよかった」と前向きにとらえて、残りの人生を楽しく生きる方が、認知症になって不安・怖いと考えながら残りの人生を送るよりも QOL（Quality of life、生活の質、生命の質）が高いのである（山口, 2019）。

（注記）厚生労働省によると、認知症とは「生後いったん正常に発達した種々の精神機能が慢性的に減退・消失することで、日常生活・社会生活を営めない状態」であり、後天的原因により生じる知能の障害である点で知的障害（精神遅滞）とは異なる。

出典：山口晴保（2017）. 認知症ポジティブ—東京ケアセンターのめざす道— 認知症ケア研究誌, 1, 11-19.

出典：山口晴保（2019）. なっても幸せ「認知症ポジティブ！」（第1回）認知症をポジティブにとらえる 全国老人保健施設協会機関誌, 30, 36-39.

問1 「認知症ポジティブ」という概念に対して、①賛同する、②賛同しない、③どちらともいえないの3つの立場からあなたの考え方に近い立場をひとつ選び、その理由、異論、反論等を論理的に述べてください（400字以内）。

問2 「認知症ポジティブ」を実現するために具体的にどのような支援体制、政策が必要であると思われるか、あなたの考えを提案してください（400字以内）。

# 総合型選抜 10月入試

【小論文】（試験時間：60分）

『健康であること』は、多くの人に関心を持っており、また、それを願い、求めていることと思われる。健康とは何かということについて、WHO（世界保健機関）は、「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」（公益社団法人日本WHO協会訳）と定義している。しかしながら、健康状態について、正常と異常を見極める明確な基準があるというわけではないため、画一的に人間の健康状態を定義することは難しいと思われる。また、その人自身が健康というものをどのように考えるかによって、健康という状態は異なってくるため、自分にとっての健康を追求する必要があるように思われる。

以上のことを踏まえ、あなたの目指したい健康とはどのような状態であるのか、また、それはどうすれば手に入れられるのかについて、あなたの考えを600字以内で述べなさい。

# ●総合型選抜 12月入試

【小論文】（試験時間：60分）

以下の文章は、19世紀末ニューヨークの人々の暮らしを題材にしたジェイコブ・リースの「向こう半分の人々の暮らし」で有名になった「Pounding the Rock」という文章です。（※ pound：こぶし、ハンマーなどで何度も打つ）

現在では、世界最高峰のプロ・バスケットボール・リーグ、NBA（National Basketball Association）で何度も優勝を果たしているサンアントニオ・スパーズのヘッドコーチのグレッグ・ポポヴィッチ氏を筆頭に、様々な分野で活躍しているリーダーが、この文章を指導哲学としていることでも知られています。

この文章を読んで、次の設問に答えなさい。

<原文>

When nothing seems to help, I go look at a stonecutter hammering away at his rock, perhaps a hundred times without as much as a crack showing in it.

Yet at the hundred and first blow it will split in two, and I know it was not that blow that did it, but all that had gone before.

<翻訳文>

救いがないと感じたときには、私は石切工が岩石を叩くのを見に行く。おそらく100回叩いても亀裂さえできないだろう。

しかしそれでも100と1回目で真っ二つに割れることもある。私は知っている。その最後の一打により岩石は割れたのではなく、それ以前に叩いたすべてによることを。

出典：ジェイコブ・リース：（翻訳）千葉喜久枝（2018）向こう半分の人々の暮らし 創元社

設問

様々な分野で活躍しているリーダー達が、なぜこの文章を指導哲学としていると考えますか。あなたの経験を踏まえて600字以内で述べて下さい。

# ●学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）

## 【小論文】（試験時間：60分）

以下の文章は、2012年6月20日から22日までの3日間、ブラジルのリオデジャネイロにおいて開催された、Rio+20 地球サミット2012（国連持続可能な開発会議）の中で、「世界一貧乏な大統領」と言われているウルグアイのホセ・ムヒカ元大統領によって行われたスピーチの全文の日本語訳です。これを読んで、次の二つの問題に答えなさい。

問題1 ホセ・ムヒカ元大統領がこのスピーチで言いたいことは何か。100字以内で述べなさい。

問題2 あなたが考える「幸福（幸せ、ウェルビーイング）」とは何か。400字以内で述べなさい。

会場にお越しの政府や代表のみなさま、ありがとうございます。

ここに招待いただいたブラジルとディルマ・ルセフ大統領に感謝いたします。私の前に、ここに立って演説した快きプレゼンターのみなさまにも感謝いたします。国を代表する者同士、人類が必要であろう国同士の決議を議決しなければならない素直な志をここで表現しているのだと思います。

しかし、頭の中にある厳しい疑問を声に出させてください。午後からずっと話されていたことは持続可能な発展と世界の貧困をなくすことでした。私たちの本音は何なのでしょう？ 現在の裕福な国々の発展と消費モデルを真似することでしょうか？

質問をさせてください：ドイツ人が一世帯で持つ車と同じ数の車をインド人が持てばこの惑星はどうなるのでしょうか。

息するための酸素がどれくらい残るのでしょうか。同じ質問を別の言い方ですると、西洋の富裕社会が持つ同じ傲慢な消費を世界の70億～80億人の人ができるほどの原料がこの地球にあるのでしょうか？ 可能ですか？ それとも別の議論をしなければならないのでしょうか？

なぜ私たちはこのような社会を作ってしまったのですか？

マーケットエコノミーの子供、資本主義の子供たち、即ち私たちが間違いなくこの無限の消費と発展を求める社会を作ってきたのです。マーケット経済がマーケット社会を造り、このグローバリゼーションが世界のあちこちまで原料を探し求める社会にしたのではないのでしょうか。

私たちがグローバリゼーションをコントロールしていますか？ あるいはグローバリゼーションが私たちをコントロールしているのではないのでしょうか？

このような残酷な競争で成り立つ消費主義社会で「みんなの世界を良くしていこう」というような共存共栄な議論はできるのでしょうか？ どこまでが仲間とどこからがライバルなのですか？

このようなことを言うのはこのイベントの重要性を批判するためのものではありません。その逆です。我々の前に立つ巨大な危機問題は環境危機ではありません、政治的な危機問題なのです。

現代に至っては、人類が作ったこの大きな勢力をコントロールしきれいていません。逆に、人類がこの消費社会にコントロールされているのです。私たちは発展するために生まれてきているわけではありません。幸せになるためにこの地球にやってきたのです。人生は短いし、すぐ目の前を過ぎてしまいます。命よりも高価なものは存在しません。

ハイパー消費が世界を壊しているのにも関わらず、高価な商品やライフスタイルのために人生を放り出しているのです。消費が社会のモーターの世界では私たちは消費をひたすら早く多くしなくてはなりません。消費が止まれば経済が麻痺し、経済が麻痺すれば不況のお化けがみんなの前に現れるのです。

このハイパー消費を続けるためには商品の寿命を縮め、できるだけ多く売らなければなりません。ということは、10万時間持つ電球を作れるのに、1000時間しか持たない電球しか売ってはいけない社会にいます！ そんな長く持つ電球はマーケットに良くないので作ってはいけないのです。人がもっと働くため、もっと売るために「使い捨ての社会」を続けなければならないのです。悪循環の中にいるのにお気づきでしょうか。これはまぎれも無く政治問題ですし、この問題を別の解決の道に私たち首脳は世界を導かなければなりません。

石器時代に戻れとは言っていません。マーケットをまたコントロールしなければならないと言っているのです。私の謙虚な考え方では、これは政治問題です。

昔の賢明な方々、エピクレオ、セネカやアイマラ民族までこんなことを言っています。

「貧乏なひととは、少ししかものを持っていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことだ」  
これはこの議論にとって文化的なキーポイントだと思います。

国の代表者としてリオ会議の決議や会合をそういう気持ちで参加しています。私のスピーチの中には耳が痛くなるような言葉がけっこうあると思いますが、みなさんには水源危機と環境危機が問題源でないことを分かってほしいのです。

根本的な問題は私たちが実行した社会モデルなのです。そして、改めて見直さなければならないのは私たちの生活スタイルだということ。

私は環境資源に恵まれている小さな国の代表です。私の国には300万人ほどの国民しかいません。でも、1300万頭の世界でもっとも美味しい牛が私の国にはあります。ヤギも800万から1000万頭ほどいます。私の国は食べ物の輸出国です。こんな小さい国なのに領土の90%が資源豊富なのです。

私の同志である労働者たちは、8時間労働を成立させるために戦いました。そして今では、6時間労働を獲得した人もいます。しかしながら、6時間労働になった人たちは別の仕事もしており、結局は以前よりも長時間働いています。なぜか？ バイク、車などのリボ払いやローンを支払わないといけません。毎月2倍働き、ローンを払って行ったら、いつの間にか私のような老人になっているのです。私と同じく、幸福な人生が目の前を一瞬で過ぎてしまいます。

そして自分にこんな質問を投げかけます：これが人類の運命なのか？ 私の言っていることはとてもシンプルなものですよ：発展は幸福を阻害するものであってはいけないのです。発展は人類に幸福をもたらすものでなくてはなりません。愛情や人間関係、子どもを育てること、友達を持つこと、そして必要最低限のものを持つこと。これらをもたらすべきなのです。

幸福が私たちのもっとも大切なものだからです。環境のために戦うのであれば、人類の幸福こそが環境の一番大切な要素であるということをおかなくてはなりません。

ありがとうございました。

# ●スポーツ特待生入試

## 【小論文】（試験時間：60分）

以下の文章を読んで、設問に答えなさい。

関東大学サッカーリーグ戦が今日から始まるらしい。ただ、日程よりもポスター内の左下にある「単位より、順位。」というコピーが目にとまる。学生サッカーも人気向上を目指していろいろと企画立案する中で、「キャッチーなコピーを思いついた」とでも思ったのだろうか。それなら大きな間違いである。

「単位より、順位。」を額面通りに受け取れば、「私たちは学業よりもサッカーを優先します」と公言していることになる。さらに言えば、「授業への出席、レポート、テストを疎かにしてでも、勝ち点のためにサッカーに時間を費やします」と読み取れる。少なくとも筆者と周囲の人々はそのように理解した。これは関東大学サッカー連盟という組織から発信されたメッセージであるが、学生アスリートたちも同じ認識なのであろうか。そうであれば、彼らは大学でサッカーをする必要はない。サッカーを優先してやりたいのであれば各地のクラブチームで、さらに能力があればJリーグでやればよい。大学に所属してサッカーをする者は、プロ選手ではない。大学生である。「順位」より「単位」が優先されるのは当然であろう。

「日本版 NCAA」を掲げて大学スポーツを活性化させる動きがある。試合の観客や視聴者を増やし、スポンサーを増やし、収入増を目指すのであろうが、大学スポーツの魅力とは何なのか？ プロとは違い、学を修めながら高いパフォーマンスを発揮することではないか。「学の放棄」を宣言した大学スポーツには価値はない。誰も応援したいとは思わないであろう。同級生だって、授業に来ずに試合出場届を提出するだけで、毎回授業に出席している自分たちと同じように卒業できてしまう学生アスリートを心から応援できるだろうか？

当事者たちが「単位より、順位。」という認識を持っているならば、「日本版 NCAA」を掲げて周りが大学スポーツの価値を高める試みをする必要はない。この認識の改善をしないままに大学スポーツのビジネス化を推し進めると、ますます「勉強しない学生アスリート」が増えるだけである。アメリカの大学スポーツがビジネスとして成立している背景に、アスリートの教育に関する NCAA と各大学競技スポーツ局（Athletic Department）の取り組みがあることを重視すべきである。このままでは大学スポーツの価値を下げることになる。

出典：学生アスリート、君たちは本当に勉強する気がないのか、早稲田大学 松岡宏高、<https://news.yahoo.co.jp/byline/matsuokahirota/20170415-0069941/>

### 設問①

近年、日本の大学スポーツ界では、学生である選手に対して「文武両道」を求める動きが広まっている。例えば、取得単位数を一つの評価基準とし、大学の定める基準を下回った場合、練習の制限や対外試合の出場停止処分を課すということがある。あなたのこれまでのスポーツおよび学業への取り組みを踏まえた上で、こうした学業成績に基づいた活動制限の設定の是非とその理由について、あなたの考えを 300 字以内で述べなさい。

### 設問②

大学においてスポーツと同程度以上に学業に取り組むことは、活動の制限がされなくなる、学業成績が良くなる、就職活動に有利になる可能性があるといったこと以外に、あなた自身にとってどのような意味があると思いますか。あなたの考えを 300 字以内で述べなさい。



# ●一般選抜 D 日程入試

## 【総合型問題（学部学科別）】（試験時間：60分）

平成 27 年 6 月の公職選挙法改正で、これまで満 20 歳以上であった選挙権年齢が満 18 歳以上に引き下げられました。衆議院議員選挙においては、平成 29 年 10 月の第 48 回衆議院議員総選挙から選挙権のある 10 歳代の若者も投票できることになり、同選挙での 10 歳代の投票率は 40.49%でした。

次ページの資料は、総務省が公表している「衆議院議員総選挙における年代別投票率の推移」を示した図表です。同資料をもとにして、以下の設問（1）～（3）を解答してください。

### 設問（1）

第 48 回衆議院議員総選挙における 10 歳代の投票率が 40.49%でした。仮に平成 29 年 10 月時点の 18 歳人口が 120 万人、19 歳人口が 130 万人とした場合、同選挙において何人の若者が投票したことになりますか？ 算出プロセスとともに答え（人数）を記してください。

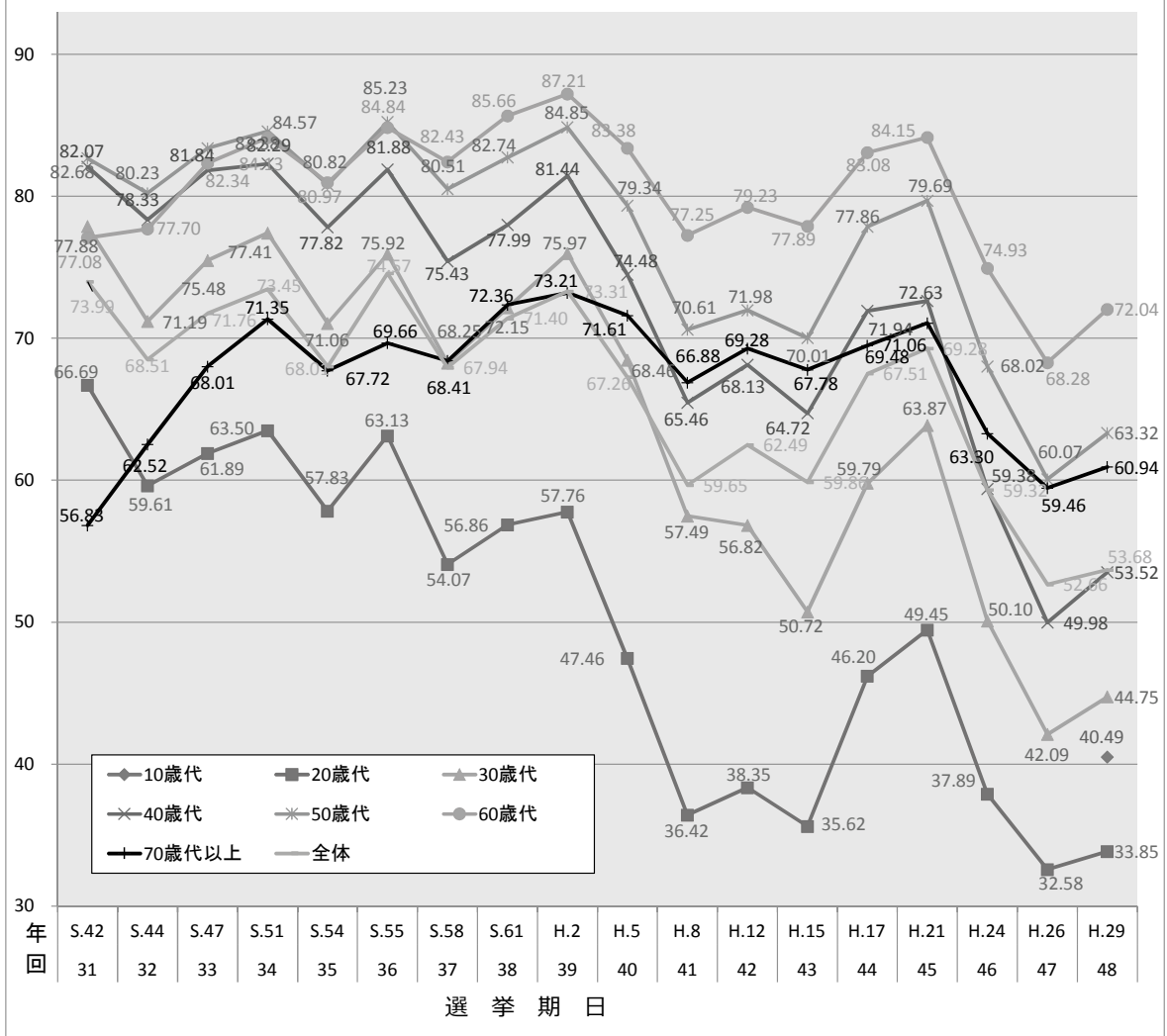
### 設問（2）

資料から、「年代」と「投票率」についてある傾向が見られます。その推移を概観して投票率が 2 番目に高い年代と下から 2 番目に低い年代をそれぞれ記してください。

### 設問（3）

資料から、若者の投票率の低さが明らかになっています。特に 20 歳代の投票率の低さが顕著です。あなたは、①その原因や理由は何だと考えますか？ また、② 20 歳代の投票率を上げるにはどうすれば良いと考えますか？ ①②を合わせて 600 字以内で記述してください。

衆議院議員総選挙における年代別投票率（抽出）の推移



(%)

年	S.42	S.44	S.47	S.51	S.54	S.55	S.58	S.61	H.2	H.5	H.8	H.12	H.15	H.17	H.21	H.24	H.26	H.29
回	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
10歳代	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	40.49
20歳代	66.69	59.61	61.89	63.50	57.83	63.13	54.07	56.86	57.76	47.46	36.42	38.35	35.62	46.20	49.45	37.89	32.58	33.85
30歳代	77.88	71.19	75.48	77.41	71.06	75.92	68.25	72.15	75.97	68.46	57.49	56.82	50.72	59.79	63.87	50.10	42.09	44.75
40歳代	82.07	78.33	81.84	82.29	77.82	81.88	75.43	77.99	81.44	74.48	65.46	68.13	64.72	71.94	72.63	59.38	49.98	53.52
50歳代	82.68	80.23	83.38	84.57	80.82	85.23	80.51	82.74	84.85	79.34	70.61	71.98	70.01	77.86	79.69	68.02	60.07	63.32
60歳代	77.08	77.70	82.34	84.13	80.97	84.84	82.43	85.66	87.21	83.38	77.25	79.23	77.89	83.08	84.15	74.93	68.28	72.04
70歳代以上	56.83	62.52	68.01	71.35	67.72	69.66	68.41	72.36	73.21	71.61	66.88	69.28	67.78	69.48	71.06	63.30	59.46	60.94
全体	73.99	68.51	71.76	73.45	68.01	74.57	67.94	71.40	73.31	67.26	59.65	62.49	59.86	67.51	69.28	59.32	52.66	53.68

※① この表のうち、年代別の投票率は、全国の投票区から、回ごとに144～188投票区を抽出し調査したものです。

※② 第31回の60歳代の投票率は60歳～70歳の値に、70歳代以上の投票率は71歳以上の値となっています。

※③ 10歳代の投票率は、全数調査による数値です。

# ●出題意図・解答例

## 総合型選抜 9月入試【出題意図】

---

新たな概念に対して、賛同の有無にかかわらず、自分の意見を適切に論理的に述べられるかどうかを評価する。一般的に、ネガティブにとらえられがちな認知症という概念に対してもポジティブな側面があることを理解し、自分の言葉で解りやすく表現できるかどうかを評価する。健康・スポーツ心理学科の理念を考慮したうえで、QOLの向上をめざし、「認知症ポジティブ」の実現に向けて首尾一貫した考えを提案できるかどうかを評価する。

## 総合型選抜 10月入試【出題意図】

---

高等学校で身に付けた基本的な学力をベースに自分なりの思考、判断、表現ができ、かつ将来の自他の健康支援に向けて、主体性、多様性の発揮が期待できる力を判断するために、設問で問われていることを的確に理解すること、理解した内容を自分なりの考えに基づきわかりやすく表現できているかどうかを評価する。

本問においては、健康観に関する設問文を読んで、問われていることを正確に理解し、その問いに対する考えを主体的に考え、論理的に表現できるかどうかについての解答を求め、それについて評価する。

## 総合型選抜 12月入試【出題意図】

---

高等学校で身に付けた基本的な学力をベースに自分なりの思考、判断、表現ができ、かつ将来の自他の健康支援に向けて、主体性、多様性の発揮が期待できる力を判断するために、設問で問われていることを的確に理解すること、理解した内容を自分なりの考えに基づきわかりやすく表現できているかどうかを評価する。

本問においては、著名人の人生観（指導哲学）に関する設問文を読んで、問われていることを正確に理解し、その問いに対する考えを主体的に考え、論理的に表現できるかどうかについての解答を求め、それについて評価する。

## 学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）【出題意図】

---

ポジティブ心理学の主要なテーマである幸福観について、現在、世界的な課題であるSDGsに関する資料を手掛かりにして、自分の考えをまとめられるか、根拠を持って主張できるかを問う。合わせて、長文を読んでその内容、論旨を正確にとらえることができるかについて評価する。

- (1) SDGsおよびRio+20地球サミット2012（国連持続可能な開発会議）についての基礎的な知識を手掛かりに、長文を読んでその内容と論旨を正確に理解すること、および的確に要約することができるかどうかを評価する。
- (2) (1)や身近な自分の体験等を根拠に、幸福（幸せ、ウェルビーイング）について、明確な考えを示すことができるかどうか、それを論理的でわかりやすい文章で表現できるかどうかを評価する。

## スポーツ特待生入試【出題意図】

---

スポーツ特待生入試で入学を希望する学生は、大学部活動において活動をする者であるが、大学アスリートである前に、大学生として、学業に励むことが求められる。しかしながら、一部には、運動部学生は競技に専念するため学業と両立しなくていいという風潮が古くから残っており、近年では、大学の運動部に所属する学生の学力不足や学業軽視が問われ始めているという実情がある。

この課題に対して、スポーツ特待生入試を受験する受験生の関心の高さや認識、そうした課題の本質を理解した上で、あるべき学生アスリート像を考える力、自分なりの考えに基づきそれらを分かりやすく表現する能力などを見る。

本問においては、大学運動部活動に関する文章を読んで、問われていることを正確に理解し、その問いに対する考えを主体的に考え、論理的に表現できるかどうかについての解答を求めている。

## 一般選抜 D 日程入試【出題意図】

---

設問(1)において、高等学校で身に付けた基本的な学力をベースに、合理的な手順により、正しい答えが算出できているかについて評価する。

設問(2)において、高等学校で身に付けた基本的な学力をベースに、資料を正しく読み取り、解釈できているかについて評価する。

設問(3)において、問われていることを正確に理解し、その問いに対する考えを主体的に考え、論理的に表現できているかについて評価する。